

病院整備計画の概要書

(平成30年11月20日 利根地域保健医療・地域医療構想協議会)

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

（仮称）宮代駅前病院

埼玉県南埼玉郡宮代町中央1丁目701-6から701-11

利根保健医療圏

2 開設者の名称・所在地

医療法人杏林会 理事長 石山隆

東京都目黒区中央町2丁目5番12号

3 病院の現状

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
計				

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床

4 開設等の目的、必要性

病床機能報告での将来推計から、利根保健医療圏における必要総病床推計数3937床中、回復期機能の必要病床推計数は1303床で、全体の3割強を占めております。

当法人は、病院を4病院・介護老人保健施設を17施設運営し、高い稼働率からくる安定した施設運営を続けてきました。なかでも、平成29年4月に東京都板橋区に回復期機能を持ったリハビリパーク板橋病院を開設し、経過1年ながら、東京都の増床認可をいただきましたことも契機となり、ますます回復期機能病院の役割の重要性を痛感し、今回の開設申請に至りました。

また、当該保健医療圏は地域医療ネットワークシステム「とねっと」を備えていて、回復期機能病院に適した地域包括ケア体制があります。そういう地域に当法人は是非、脳機能疾患等の急性期後の回復期リハビリテーション病棟や、在宅復帰をゴールと見据えた地域包括ケア病棟を、そして地域のプライマリケアのため、内科・小児科外来を備えていきたいと思っております。また、県内の緩和ケア病床の総病床数は255床ですが、当該保健医療

圏には緩和ケア病棟は0床であり、当方にて緩和ケア病棟24床を創設します。

また、今回申請したもう一つの理由として、東武鉄道株式会社様が構想している東武動物公園駅西口土地区画整理事業の街区内の医療施設整備構想に参画するチャンスに恵まれたことがあります。東武沿線上に3世代家族が近居する新しい街区を東武動物公園駅前に作り、子育てファミリー・シニア・介護住宅が共生し、さらに医療・保育施設、ショッピングモール等がある街を備え、沿線上の住民や通勤通学者の健康診断や人間ドック診断を行う医療施設を考えており、当該地が新たな医療機能の役割を果たすことで、当該保健医療圏や沿線上の医療がより強固できめ細やかに変化していきます。

従事者の確保については、開設までに法定必要数を確保します。そのため、南埼玉郡市医師会や県看護協会、社会福祉協議会の福祉人材センター等と連携を密にするとともに、様々な求人掲載媒体を活用し、また法人全体のネットワークを駆使して複数の人材紹介会社からの人材確保に成功している実績があることから、今回も多くの人材確保を実現します。また、県内の大学・専門養成学校への訪問・相談を重ね、採用動向を見極めながら、新卒人材確保にも努めていきます。そして、県内の看護師人員が慢性的に不足している現状を耳にし、理事が代表を務めている事業が看護師専門学校及び看護大学を運営している実績があることから、東武鉄道株式会社様との共同事業としてこの街区に看護師養成学校の整備を具体的に検討しています。

当法人では、これまでの病院・介護施設の開設においても、開設時期に合わせて施設整備を完了させてきた実績があります。院内のインフラ・ネットワーク環境の整備、医療機器やリハビリテーション機器を始めとした当該医療機能に必要な設備を開設までに整備します。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 207 床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
回復期	回復期	療養	回復期リハビリテーション入院料4	123
回復期	回復期	療養	地域包括ケア病棟入院料3	60
回復期	回復期	療養	緩和ケア病棟入院料2	24
計			—	207

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

1. 回復期リハビリテーション病棟123床

当該保健医療圏内での急性期から回復期機能病床への必要転院者数を新入院患者数と退院患者数から推計すると、急性期病院の総病床数は現在1678床あり、その平均在院日数17日（全国平均）から退院患者数9007名のうち（退院者内訳平均、在宅5割、療養病棟1.5割、回復期リハビリテーション病棟2割、地域包括病棟0.5割、介護施設1割）、回復期リハビリテーション病棟への転院者が1801名いると推計しました。

その一方で、転院先となる回復期リハビリテーション総病床数は現在717床、その平均在院日数39日（当法人平均）から、新入院者数1677名を受入可能と推計しました。その結果、124名分が不足していることとなり、当方の123床で288名分受入能力があり、不足分を全て受入できます。

2. 地域包括ケア病棟60床

当該保健医療圏内での急性期から回復期機能病棟への必要転院者数を新入院患者数と退院患者数から推計すると、急性期病院の総病床数は現在1678床あり、その平均在院日数17日（全国平均）から退院患者数9007名のうち（退院者内訳平均、在宅5割、療養病棟1.5割、回復期リハビリテーション病棟2割、地域包括病棟0.5割、介護施設1割）、地域包括ケア病棟への転院者が451名いると推計しました。その一方で、転院先となる地域包括ケア病棟総病床数は現在96床、その平均在院日数39日（当法人平均）から、新入院者225名を受入可能と推計しました。その結果、226名分の病床が不足していることとなり、当方の60床で140名分の受入ができます。

3. 緩和ケア病棟24床

県内の総緩和ケア病床数は255床、圏域保健医療圏には緩和ケア病棟はなく、これまで近隣保健医療圏で療養してきた緩和ケア対象患者を当該保健医療圏にて対応できます。

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	m ²		所有・借地
取得予定	4398.9 m ²		所有・借地
計	4398.9 m ²		

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・その他（ ）
概要	敷地面積 4398.9 m ² 、建築面積 2987.12 m ² 、 延床面積 5906.03 m ² 鉄骨造2階建て

(4) 医療従事者

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師				5	1	0.9
看護師				41		
その他				87		
計				134		

確保状況・確保策、確保スケジュール

病床許可が決まり次第、全医療従事者の求人活動を開始します。ハローワーク・タウン誌・求人誌、駅広告等を活用し求人募集します。特に医師の募集については、当法人のリハビリパーク板橋病院等が大学病院の医局と連携しており、そこからの医師紹介及び派遣を推し進めます。また看護職を始めとした県内の大学や専門養成学校を訪問し、新卒職員を積極的に採用します。そして、法人全体のネットワークから複数の人材紹介会社からの人材確保を行うとともに、当法人では外国人看護職の日本語学校とも人材紹介契約しており、そこからの外国人看護職の人材確保も行います。さらに、既存病院や施設では、随時、求人採用を行っていますので、特に医師・看護職・リハビリ職については、当法人の他施設にて開設まで勤務してもらうので、早い段階から人材確保します。そして平成34年4月の開設までに必要職員数を整備します。

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
1	開設（変更）許可（医療法）	平成33年 2月	
2	建築（着工～竣工）	平成33年3月～平成34年3月（13か月）	
3	使用許可（医療法）	平成34年1月	
4	開設（増床）	平成34年4月	

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

新久喜総合病院

埼玉県久喜市上早見418番地1

利根医療圏

2 開設者の名称・所在地

医療法人社団埼玉巨樹の会 理事長 蒲池 健一

埼玉県久喜市上早見418番地1

3 病院の現状

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
高度急性期	一般病床	202床	202床	0床
回復期	一般病床	98床	98床	0床
計		300床	300床	0床

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
95%	-	-	100%

4 開設等の目的、必要性

超高齢社会を迎える埼玉県において、将来にわたり持続可能で質の高い保健医療体制を確保するため、当圏域内において病床の確保が必要と考えます。

当院は、2次レベル以上の救急を受け入れる救急医療体制を整えています。医療提供レベルは、救急患者のたらい回しをしない「断らない病院」を基本に、手術・検査等の高度医療の提供を行い、4大疾病（がん、急性心筋梗塞、脳卒中、糖尿病）を中心に地域住民の方々にとって必須の医療を提供しております。

しかしながら、救急車受け入れにあたり、年間138日（H29年度）が病床利用率100%に近い状態であった為、平均在院日数10日以内でありつつも年の内約40%が受け入れを制限せざるを得ない状態となりました。また、1病床あたりの入院患者数は36名と全国TOPクラスの病床回転率ですが、病床確保が間に合わず救急患者及び一般患者を受け入れることが困難となりました。これらのことを踏まえ、高度急性期100床、回復期50床の計150床の増床を計画しており、将来的に地域医療を担う上で旧栗橋地区、鷲宮地区についても救急体制、病診連携体制を強化し久喜市を中心に利根医療圏全体の地域医療、救急医療の発展に貢献させていただきたいと考えています。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 150 床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
がん医療、脳卒中医療、 心血管疾患医療、救急医療	高度急性期	一般	特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、急性期一般入院料1	100
回復期機能	回復期	一般	回復期リハビリテーション病棟入院料1	50
計	—	—	—	150

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

高度急性期：100床

今後、当該保健医療圏に限らず高齢者の増加に伴い「がん」「脳卒中」「心血管疾患」を中心とした救急医療の需要の増加が見込まれます。本医療圏においては、入院患者の受療動向（平成25年）は、1日あたりの流出が高度急性期141名、急性期369名、回復期349名、慢性期267名の計1,126名となっており、うち県内流出は897名、県外流出は229名となっております。また、疾患ごとの推計患者数（平成23年から平成37年比較）は、悪性新生物が21%増、虚血性心疾患が34%増、脳血管疾患が52%増となっております。

現在、当院においては上記の疾患に対し高度急性期病床202床において100%に近い病床稼働率にて対応しています。今年度、上記疾患の各部門における常勤医師の増員、診療科の増加に伴い更なる入院患者及び救急患者の受け入れが可能であり、下記の増床により試算のとおり入院患者及び救急患者を受け入れ、質の高い医療を提供いたします。

*埼玉県地域医療構想資料

*日本医師会総合政策研究機構『地域の医療提供体制の現状と将来-都道府県別・二次医療圏別データ集-(2014年度版)』

○**がん医療**…20床（平均在院日数＝21.0日）対象入院患者数：29人（月）

※実績：新規入院患者平成27年実績（月平均119人）から平成30年実績（月平均177人）

※泌尿器科医師、呼吸器外科医師、乳腺外科医師、外科医師の確保、消化器外科新設により、がん医療拡充が可能となりました。平成27年度と比較し33%増です。引き続き医療拡充してまいります。

○**脳卒中医療**…30床（平均在院日数＝21.0日）対象入院患者数：43人（月）

※実績：新規入院患者平成27年実績（月平均53人）から平成30年実績（月平均91人）

※脳神経外科常勤医師の増員により脳卒中医療の受入れ強化が可能となりました。平成27年度と比較し42%増です。引き続き医療拡充してまいります。

○心血管疾患医療…20床（平均在院日数=21.0日）対象入院患者数：29人（月）

※実績：新規入院患者平成27年実績（月平均86人）から平成30年実績（月平均124人）

※心臓血管外科常勤医師の増員より心血管疾患医療の受入れ強化が可能となりました。また、循環器内科医師との連携を強化しカテーテル検査から外科的手術までの体制を強化いたしました。平成27年度と比較し31%増です。引き続き医療拡充してまいります。

○救急医療…30床（平均在院日数=16.0日）対象入院患者数：57人（月）

※実績：救急車搬入患者平成27年実績（月平均249人）から平成30年実績（月平均552人）

※「がん」「脳卒中」「心血管疾患」以外の救急医療についても救急専門医の増員を始め常勤医師の増員に伴い救急患者受入れの体制強化がされています。平成27年度と比較し55%増です。引き続き医療拡充してまいります。

回復期：50床

高度急性期病床の増床により救急患者の受入れは可能ですが、当院周辺地域においては急性期治療を終えた後のpost-acuteの確保が困難となっております。現在、新規入院患者の約8%が急性期治療後にすぐに在宅復帰が困難な状況です。当院では98床の回復期病床を稼働しpost-acuteを自院で設置しており稼働率は、ほぼ100%となっております。

今回の高度急性期増床により発生する在宅復帰困難な患者に対し回復期を増床し自院にてpost-acuteを確保するとともに、現在対応が困難な他医療施設からの回復期への紹介についても対応いたします。

○回復期医療…50床（平均在院日数=55.4日）対象入院患者数：27人（月）

※実績：転院相談件数（平成28年～平成29年度）月平均30人

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	37950.86m ²	/	所有
取得予定	m ²		
計	37950.86m ²		

(3) 計画建物

工事種別	増築
概要	区 域：都市計画悔区域内・市街化調整区域 用途地域：防火地域指定なし、建蔽率60%、容積率100% 日影規制：有り

病院整備計画申出者（法人名）医療法人社団埼玉巨樹の会

敷地面積：37,950.86㎡ 11,480坪
計画建物概要：耐震構造 地上5階建て
各階床面積：9,179.47㎡ 2,776.79坪

(4) 医療従事者

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	50	47	9.6	20		
看護師	316	27	17.4	116		
その他	425	31	17	95		
計	791	105	44	231		

確保状況・確保策、確保スケジュール

<p>医師について、70名の人員確保を考えています。</p> <p>当院実績として、招聘活動を行う専門職員を配置し、平成29年度入職常勤医師数15名、平成30年入職常勤医師数14名と積極的な採用を実現してきました。</p> <p>グループに在籍する医師のネットワークから医師招聘、医師求人専用の特設ホームページを設立、医師紹介業者を活用し医師採用を進めてまいりました。また、関東周辺の10大学以上と連携し医師派遣の協力を頂いており、更なる連携強化を図ります。短期的な不足人員に関してはグループ内からの異動で補いますが、中長期的な視点で久喜に根付いた医療を提供するためにも、若手医師の募集も積極的に取り組んでおります。特に地元出身の初期研修医を多く集め、地域医療を継続的に行える医師を育てていくためにも、しっかりとした教育体制の構築が必要と考えております。</p> <p>グループの主な医師確保については、臨床研修医からの残留が大きなところですが、初期研修医受入数は累計349名、修了者は295名、内3年目以降残留した医師の数は107名と高い水準を維持しています。平成29年度の研修医の定数は、グループ内合計35名です。また、グループ法人内の医師は478名在籍しており、万全のバックアップ体制を確立しています。</p>
--

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
1	開設（変更）許可（医療法）	平成31年12月	
2	建築（着工～竣工）	平成32年1月～平成33年4月（15か月）	
3	使用許可（医療法）	平成33年4月	
4	開設（増床）	平成33年4月	

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

埼玉医療生活協同組合 羽生総合病院 ・ 埼玉県羽生市大字下岩瀬 4 4 6 ・ 利根医療圏

2 開設者の名称・所在地

埼玉医療生活協同組合 理事長 福島 安義 ・ 埼玉県羽生市大字下岩瀬 4 4 6

3 病院の現状

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
高度急性期	一般	10床	10床	0床
急性期	一般	266床	266床	0床
慢性期	一般	35床	35床	0床
計		311床	311床	0床

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
75.1%			

4 開設等の目的、必要性

当院は「生命だけは平等だ」を基本理念とし、地域密着型、年中無休、24時間オープンの中核病院として医療に邁進してまいりました。どんな状況の患者でも受け入れる救急病院を目指すとともに、羽生市内の救急車受け入れ実績は85パーセント以上となっており、100パーセント受け入れることを目標にしております。年間の救急車受け入れ件数は3000件を超えております。また、周辺住民の皆様の高齢化に伴う各種疾患に対する取り組みも行っております。平成30年5月1日に新築移転を行い、トモセラピーやPETCTといった最新鋭の高度医療機器を備えるとともに、HCU病棟や緩和ケア病棟といった専門性の高い病床を有しております。また、病気の早期発見、早期治療のための、人間ドック、健康診断など各種予防医療にも力を注いでおります。利根医療圏では、75歳以上の人口が平成25年から12年で463,000人増加が見込まれており、入院患者の医療需要も一日当たり3937人が見込まれております。その中において、高度急性期病床は388床不足しており、かつ、利根医療圏には救急医療の基幹となる病院が整備されていないことを鑑みて、高齢化の進展に伴う、医療需要の増大する救急診療を提供するための病床が必要となります。また、利根医療圏には回復期病床が1065床不足していることから、回復期病床を増床し、急性期から状態が安定しつつある患者への診療、治療を提供していきます。当院の5キロ圏内には回復期機能を有する病院がないことから地域の基幹病院と

して、地域完結型の病院を目指しております。新たに整備する病床機能は、救急医療を担う病床が10床、緩和ケアを担う病床が5床、回復期機能を担う病床が100床、周産期医療を担う病床が15床、整備を予定しております。これにより、県外や埼玉南部へと流出している患者に対応する力のある病院へと変わります。

雇用計画については、現在の常勤数に加えて、新規病棟開棟に備え、医師15名、看護師50名、PT15名、OT10名、ST5名、社会福祉士3名増員予定とし、ほか薬剤師7名、放射線技師5名、臨床検査技師5名の採用を考えております。

設備に関しては、病棟で使用するベッドや関連製品の購入、救急病棟で使う救急蘇生装置、除細動器、心電計、呼吸心拍監視装置、人工呼吸器、NICUでつかう保育器や人工呼吸器、回復期リハビリ病棟で使うリハビリ機器の購入を予定しております。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 130床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
救急医療	高度急性期	一般	ハイケアユニット入院医療管理料1	2
緩和ケア	慢性期	一般	緩和ケア病棟入院料2	5
回復期機能	回復期	一般	回復期リハビリテーション病棟入院料3	100
周産期医療	急性期	一般	急性期一般入院料1	15
救急医療	急性期	一般	急性期一般入院料1	8
計	—	—	—	130

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

直近1年間の病床利用率は7割5分ほどだが、5月1日に新築移転をし、外来患者数、入院患者数ともに増加傾向である。冬季に入院患者が増える傾向にあり、満床近くまで入院患者が入院した月もあった。当院は年中無休24時間オープンという理念の元、救急医療にも力を注いでいる。7月にHCU(10床)の届出を行い、稼働率は8割5分(平均入院患者数は9人)と高い稼働率を維持しているため、2床増床を希望する。一般病床では8床増床し、さらなる救急患者を受け入れる病床を確保したい。がん医療について、緩和ケア病棟(10床)についても稼働率が上がってきており(7割)、疾病構造上、さらなるがん患者

の受け入れ間口を増やし、病床の機能を生かすためにも5床増床を希望する。周産期医療についても力を注いでいくつもりである。利根医療圏では、周産期の患者は、県南や他県へ転院していくことがほとんどである。そのため、15床増床し、近隣の周産期医療を担っていく所存である。回復期リハビリテーション病棟の病床数については100床の増床を希望する。2025年には利根医療圏において回復期機能を有する病床が1000床ほど不足する事態を鑑みつつ、当院には回復期機能を有する病床が存在しないため、当医療圏の回復期機能の一端を担うためには希望する病床数が必要である。県外に回復期機能をゆだねないために、当院で回復期機能病床を持ち、地域で完結できるような病院として生まれ変わる所存である。

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	48153.24㎡		所有・借地
取得予定	㎡		所有・借地
計	48153.24㎡		

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・その他()
概要	敷地内に新棟を増築 構造 鉄骨造 建築面積 2202㎡ 延べ面積 2階 2082㎡ 1階 1518㎡ 計 3600㎡

(4) 医療従事者

職種	現在の人員(人)			確保予定の人員(人)		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	43	3	1.9	15		
看護師	206	31	25.49	50		
その他	245	42	28.83	65		
計	494	76	56.22	130		

確保状況・確保策、確保スケジュール

病床整備の許可が下り次第、ホームページや紹介会社等に増床予定の案内を出し、当院が求人を行う予定であることをアピールする。平成34年2月に増床分の病棟が開棟予定なので、平成32年5月より来年度の新人職員採用の告知を行う。年度頭より不足人材の確保のために紹介会社や、大学病院などに赴き面談をおこなう。また、求人広告やハローワークでも求人案内を出し、人材を確保する。当院は徳洲会グループに属しているため、医師、看護師、コメディカルで転勤の希望者がいないかグループ病院に案内を出す。それでも人材が不足する事態が起こった場合には、グループ病院間でスタッフの転勤や応援の要請を行い人材を確保する。

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
1	開設（変更）許可（医療法）	平成33年3月	
2	建築（着工～竣工）	平成33年3月～平成33年12月(10か月)	
3	使用許可（医療法）	平成34年1月	
4	開設（増床）	平成34年2月	

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

名 称 (仮称) 行田リハビリテーション病院
 所 在 地 埼玉県行田市持田376番地
 二次医療圏 利根二次保健医療圏

2 開設者の名称・所在地

名 称 社会医療法人壮幸会
 所 在 地 埼玉県行田市持田376番地

3 病院の現状

病床数 *現病院（行田総合病院）の状況

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
急性期	一般	343床	343床	0床
回復期	一般	107床	107床	0床
慢性期	療養	54床	54床	0床
計		504床	504床	0床

病床利用率（平均） *現病院（行田総合病院）の状況

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
58.6%	96.7%	95.1%	97.5%

4 開設等の目的、必要性

当院は、行田市を含む利根保健医療圏の医療を総合的に担ってまいりました。

地域医療構想を踏まえた医療整備計画について、更に高齢化が進むこの地域での当院の機能、役割をさらに検討した結果、回復期病床38床の増床を計画、開設することを希望致します。

当院の所在する利根保健医療圏の人口は、約65万人（2015年国勢調査より）であり、高齢化率が高いが、医療資源が顕著な地域であるため、これからの長寿化と共に医療資源の必要な住民の増加は避けられない大きな課題があります。地域完結型の医療体制の目標において、地域包括ケアシステムの構築が必要な背景がある中で、利根保健医療圏では、高度急性期病床の不足をはじめ、特に回復期病床の不足が顕著です。そのため、平成25年度の入院患者の受療動向では、流出患者が流入患者を大きく上回っております。これらを解消するために本年度の医療整備計画において、当該保健医療圏域に回復期病床の増床が立案されております。

当院は二次救急指定病院、埼玉県救急搬送困難事案受入病院である中で、年間4,742件

（直近7月までの通年実績）の救急搬送受入れを行っており、今後、心筋梗塞などの循環器疾患、脳卒中などの神経系疾患、誤嚥性肺炎などの呼吸器疾患の救急医療が増加することを視野に、バックアップ体制の一つとして、今年度、手術部門の拡大増設を行いました。さらに循環器疾患の緊急処置のための心臓カテーテル検査治療室も増設を完了し、救急患者の受入れに対しての強化を図りました。結果的には、救急医療のセンター化を含めたチーム医療を目標としており、救急専門病棟、特定集中治療室やハイケアユニットなどを本格稼働させることで、質の高い医療の提供を目指します。

当院の高度急性期医療の実現、提供のためには後方となる病床との充実連携が必要となります。しかしながら、現状においては回復期病床がほぼ満床である状況が続き、圏域・県内外の他の医療機関への転院が増加しております。この状況が、結果として歯止めのきかない入院患者の流出、すなわち地域完結型医療体制の崩壊につながってしまうと考えます。当院の役割として、また、二次救急指定病院、埼玉県救急搬送困難事案受入病院を担う医療機関として、後方病床の整備が急務であると考え、回復期病床の増床を計画しました。

また、当院は地域医療支援病院の機能も担っており、地域包括ケアシステムの充実化を図るため、地域住民をはじめ、地域の医療機関との連携を密に行ってきました。今後、医療受療率が高くなる循環器系、神経系、呼吸器系の治療の連携やポストアキュート及びサブアキュートとしての患者の受入れ、紹介・逆紹介の充実化を図るためにも、在宅復帰が目的である回復期病床の拡充が必要不可欠であると考えます。

計画を実行する上で、人材確保の大きな課題がありますが、当院では現在、リハビリテーションを担うセラピスト（PT, OT, ST）が110名在籍しており、毎年30数名のセラピスト（PT, OT, ST）の確保も出来ております。また、医療従事者の採用力も医師、看護師含め、年々充実化ができております。以上のことから、現在までの実績もあるため、人材確保の点において、当院では大きな課題にはならないと考えております。

最後に、病院機能の更なる明確分化のため、分院化を考えております。

今後、504床のケアミックスの運営をするうえで、高度、急性期の機能を担う「行田総合病院」と、回復期、慢性期の機能を担う「（仮称）行田リハビリテーション病院」とに分院化し、設備機能の整理、人財の適材配置を行うことにより、更なる地域包括ケアシステムの構築が可能になると考えております。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 38 床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
回復期機能	回復期	一般	回復期リハビリテーション病棟入院料2	38 床
計	—	—	—	38 床

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

<p><回復期38床増床を計画した根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利根保健医療圏 回復期リハ病床整備状況 36.4床/10万人 ・県全体 回復期リハ病床整備状況 40.8床/10万人 →県内水準にするために必要な病床数 $(40.8\text{床} - 36.4\text{床}) \times 65\text{万人}/10\text{万人} = 28.6\text{床}$ ・全国水準 60床/10万人（回復期リハビリテーション病棟協会データより） →全国水準にするために必要な病床数 $(60.0\text{床} - 36.4\text{床}) \times 65\text{万人}/10\text{万人} = 153.4\text{床}$ <p>利根保健医療圏では、回復期リハビリテーション病床が県内水準に比べ26.4床過少であり、さらに全国の水準に比べ153.4床過少であります。今後、更に医療受療率が増える当医療圏においては、現状の不足数以上に病床数の確保が必要になります。</p> <p>以上を踏まえ、圏域で不足している回復期病床のうち、経営面、運営面における効率性及び適正な人員配置の面などを勘案し、38床増床を計画しました。</p>

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	4,433.92㎡		所有・借地
取得予定	㎡		所有・借地
計	4,433.92㎡		

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・その他（ ）
概要	<ul style="list-style-type: none"> 概要 既存敷地内に新棟を増築 構造 鉄骨造4階建 建築面積 1,070.51㎡ 延床面積 4,153.43㎡（本棟 4,051.43㎡、渡り廊下 102㎡）

(4) 医療従事者

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	52	51	10.9	3		
看護師	316	56	36.0	22		
その他	377	52	31.6	44		
計	745	159	78.5	69		

確保状況・確保策、確保スケジュール

<p><医療従事者確保スケジュール></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成32年9月までに 看護師 7名、他 14名 平成33年3月（着工時）までに 医師 1名、看護師 10名、他 21名 平成34年8月（病院竣工）までに 医師 2名、看護師 5名、他 9名 <hr/> <p>合計 医師 3名、看護師 22名、他 44名</p>		
---	--	--

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
1	開設（変更）許可（医療法）	平成33年3月	
2	建築（着工～竣工）	平成33年3月～平成34年8月(18か月)	
3	使用許可（医療法）	平成34年10月	
4	開設（増床）	平成34年11月	

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

医療法人ひかり会パーク病院

病院長 原田 知幸

埼玉県白岡市千駄野 1 0 8 6 - 1

利根保健医療圏

2 開設者の名称・所在地

医療法人ひかり会

理事長 原田 知幸

埼玉県さいたま市岩槻区平林寺 1 0 8

3 病院の現状

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
急性期	一般	30	30	0
慢性期	療養	20	20	0
計		50	50	0

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
86.3%	100.0%		

4 開設等の目的、必要性

利根保健医療圏では、高齢化率が27.5%と県平均の24.8%に比べ高く、2030年の75歳以上人口は約12万1千人で、2015年に比べ約1.6倍となり、医療ニーズが急激に増加していくことが見込まれます。高齢化の進展に伴い、通院できない重度の要介護者がますます増加することが見込まれ、在宅医療の充実が求められています。

当パーク病院においても、かかりつけ患者の高齢化に伴い、自宅での医療処置を望む患者やその家族が増えていることを日々肌で感じております。現在は在宅医療を行っておりませんが、患者や地域の要望に応え、在宅医療の実施体制を整えることは喫緊の課題と認識しております。現状、在宅医療専任の医師を確保するため病院長が人選を始めておりますが、遅くとも平成32年3月中には体制を整え、4月に在宅療養支援病院の届出をする計画です。現状、当保険医療圏では3病院しか在宅療養支援病院の届出をしておりませんので、計画通り進めば、当院も地域在宅医療に十分貢献できると考えております。

一方、当院では、近隣の急性期病院、診療所、介護施設などより毎日のように入院の相

談が寄せられ、当地域における回復期、慢性期の医療ニーズを強く感じております。しかしながら、当院の療養病床は開院以来ほぼ100%で稼働し病床が不足しているため、受け入れを断らざるを得ないケースが少なくありません。最近では、在宅医療を行う近隣の医師からも患者の受入を依頼されることが増えてきました。

当院は、2017年8月よりリハビリテーション科を標榜し、脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱと運動期リハビリテーション料Ⅰの施設基準を届出し、療養病床でも回復期機能に力を入れており、直近は在宅復帰できた患者も出始めております。今後益々在宅復帰を推進し、在宅医療との相乗効果を図っていく所存です。

埼玉県地域医療構想の各区域における必要病床推計結果では、2025年に当保健医療圏では回復期、慢性期病床が大きく不足いたします。よって、上記の理由から当院が在宅療養支援として必要な病床を整備する必要があると考え、応募させていただきます。

なお、当院の開設時には、現状よりも20床多く病床整備することを想定し建物を新築しているため、それほど設備整備の手間はかかりません。また、この地域で17年間病院運営しているため、医療従事者の雇用確保にも知見があり、計画通り実行できると思っております。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数

整備計画病床 20 床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
回復期機能(在宅療養支援)	慢性期	療養	療養病棟入院基本料 1	20
計	—	—	—	20

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

直近1年間で外来受診された患者のうち医師が入院必要と判定したが、ベッドが空いていないため他病院などへ送らざるを得なかった患者数が月平均5.2人(相談連絡・受診の外来項目10.83－入院受入の外来項目5.67)・・・①

診療所、施設、他病院から入院相談を受けたが、当院へ入院できなかった患者数が月平均10.6人(相談連絡・受診の診療所・施設・病院項目14.25－入院受入の診療所・施設・病院項目3.66)・・・②

対象入院患者数15.8人(①+②) × 平均在院日数551日 ÷ 365 = 23.9

病院整備計画申出者 医療法人ひかり会パーク病院

なお、在宅療養支援病院の届出にあたって、施設基準である「緊急時に在宅療養患者が入院できるよう常に確保しておく病床」を2床と想定しており、厳密には25.9床以上整備したいところですが、整備コストを考え20床が妥当と判断しました。

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	4211.9m ²		所有・借地
取得予定	m ²		所有・借地
計	4211.9m ²		

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・その他()
概要	延床面積 2995.28m ² 3階病棟医療ガスアウトレットOV増設工事

(4) 医療従事者

職種	現在の人員(人)			確保予定の人員(人)		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	3	14	2.695	1		
看護師	11	3	1.1	1		
准看護師	16	3	1.4	4		
看護補助者	9	4	1.4	4		
その他	23	7	4.4			
計	62	31	11.0	10		

確保状況・確保策、確保スケジュール

在宅医療専任の常勤医師1名の確保に関しては、病院長の人的ネットワークで数名の候補者が挙がっておりますが、本計画が承認され次第、選定していく予定です。

看護師1名、准看護師4名、看護補助者4名の常勤職員については、定期的にハローワークや広告へ求人掲載し、また随時、民間の人材紹介会社へ依頼し、約1年かけて順次確保していく予定です。

病院整備計画申出者 医療法人ひかり会パーク病院

(5) スケジュール

No.	項 目	計画年月	備 考
1	開設(変更)許可(医療法)	平成32年2月	
2	建築(着工～竣工)	平成 年 月～平成 年 月(か月)	該当なし
3	使用許可(医療法)	平成32年3月	
4	開設(増床)	平成32年4月	

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

(仮称)しらさきクリニック病院 埼玉県久喜市久喜新1180番1 利根医療圏

2 開設者の名称・所在地

白崎 泰隆

3 病院の現状（しらさきクリニック）

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
急性期	一般病床	19	19	0
計		19	19	

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
88.3%			

4 開設等の目的、必要性

埼玉県地域医療構想より、医療機能全体の受療動向において、患者の住所地と入院している医療機関の所在地が同一の区域内で完結している割合は、県全体で 72.9%となっています。利根区域においては、最も低い南西部区域（63.6%）に続き、ワースト2（67.1%）となっており、近隣都県に幅広く流出しています。高度急性期の受療動向について、区域内で完結している割合は、県全体で 65.9%となっていますが、利根区域においては、60.2%と下回っており、急性期の受療動向においても、区域内で完結している割合は、県全体で 73.4%であり、最も低い秩父区域（66.1%）に続き、利根区域についても完結率が低く（67.3%）、県内他区域や近隣都県に幅広く流出しています。高度急性期、急性期とも完結率が低くのが現状であり、区域内に高度急性期の病床が極めて少なく、急性期医療を安定して提供していくことも課題となっています。

利根区域は高齢者の増加などを背景として、平成 37 年(2025 年)以降も医療需要が増加すると見込まれています。入院患者の多くがさいたま、県央、東部など近隣の区域に流出しており、病床利用率が病床利用率が県内で最も低いという特徴があり、病床利用率が低い理由として、地域完結医療体制の構築が万全でないため、当区域から周辺の区域への入院患者の流出が多いことが挙げられます。急速な高齢化の進展に伴い、がん、心疾患などの生活習慣病患者や要介護者の増加などが懸念されるとともに、高齢社会においては、健康で自立した生活を送ることができる期間、いわゆる健康寿命をできる限り伸ばしていくことが必要と謳われております。

本圏域の平成 27 年の死因別死亡割合は、生活習慣病といわれる心疾患 17.8%、脳血管疾患 8.3%を占めています。本圏域内の標準化死亡比(2011 年~2015 年の平均値)は、脳血管疾患と心疾患男性 107.7 女性 111.4 と、県平均を上回っています。(埼玉県健康指標総合ソフト:埼玉県衛生研究所)

◇ 標準化死亡比 (2011 年~2015 年の平均値)

	悪性新生物		糖尿病		脳血管疾患		心疾患	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
埼玉県	100	100	100	100	100	100	100	100
利根保健医療圏	96.9	95.0	107.8	90.4	104.8	110.3	107.7	111.4

〔埼玉県健康指標総合ソフト：埼玉県衛生研究所〕

2 入院患者の受療動向（平成 25 年（2013 年））

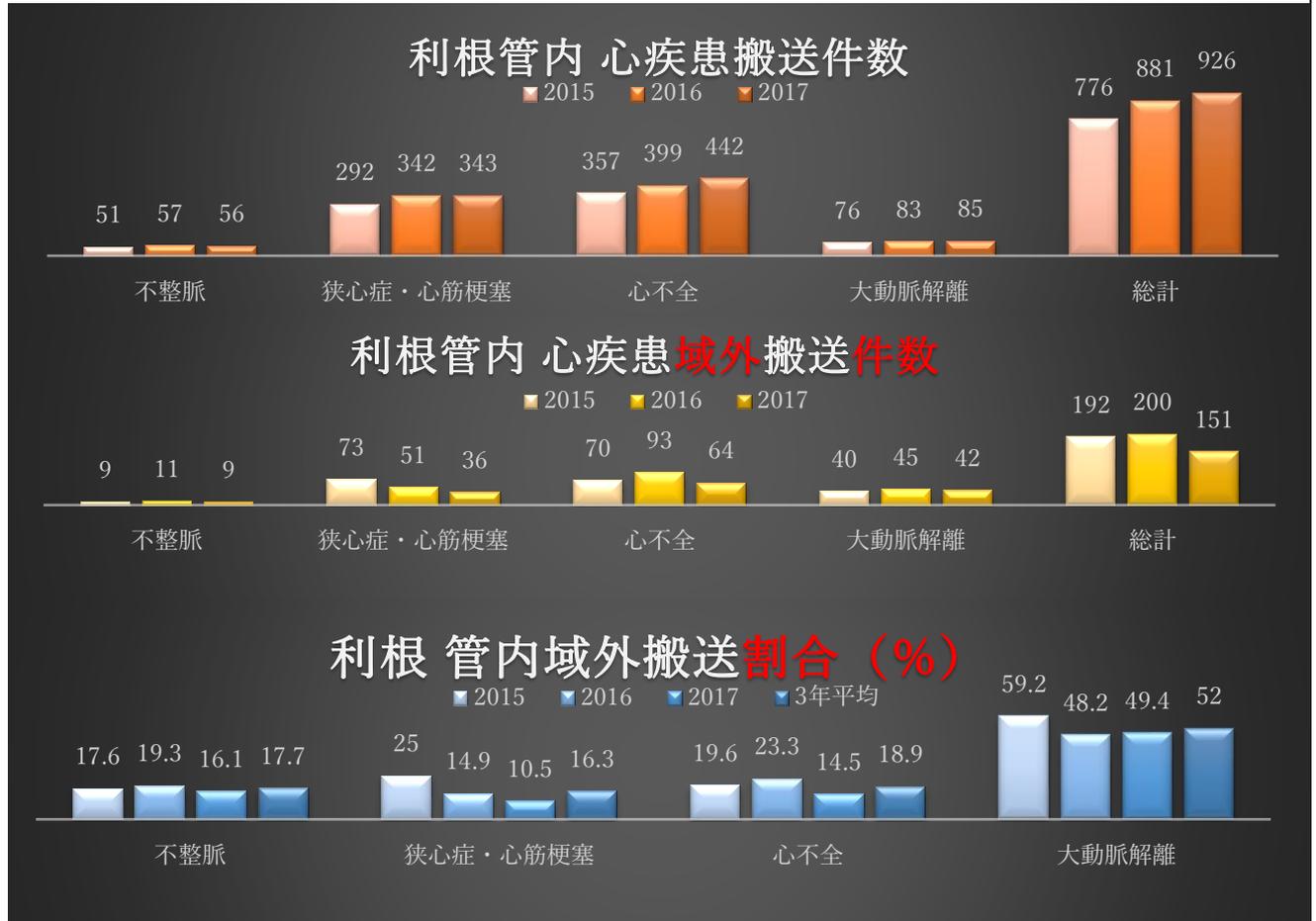
	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	合計	(人/日)	
						県内	県外
流入	17	131	148	233	529	466	63
流出	141	368	349	267	1,125	897	228
(流入ー流出)	▲124	▲237	▲201	▲34	▲596	▲431	▲165

流出超過

利根区域で受療動向において高度急性期流入 17、流出 141、急性期流入 131、流出 368 人/日であり、合計 499 人/日の流出を防ぎながら、148 人/日の流入に対応しなければなりません。

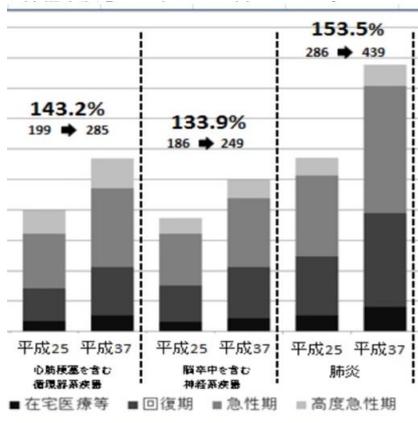
また利根管内の 2015 年から 2017 年の不整脈、狭心症・心筋梗塞、心不全、大動脈解離の搬送実績は、総件数において、2015 年 776 件、2016 年 881 件、2017 年 926 件と年々増加傾向にあり、そのうち域外

搬送件数は 2015 年 192 件、2016 年 200 件、2017 年 151 件もの件数が搬送時間が長いとされる域外搬送となっており、死亡率低下の妨げとなっております。また心臓外科手術が必要となる大動脈解離の域外搬送件割合は 3 年平均で 52%と高くなっており、心臓外科手術室の設置が必要です。



（東部消防組合より提供）

さらには平成 37 年の医療需要推計では循環器疾患患者 199→285 人/日（143.2%増）と推計されており、心疾患に対応できる高度急性期、急性期病床をもつ施設の整備が急務といえます。



(3) 病床の必要量

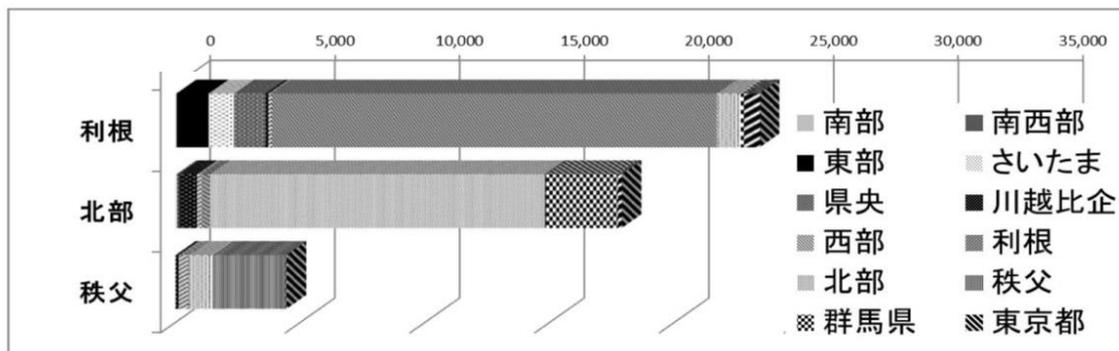
(1) を基に、機能区分別に医療法施行規則で定める病床稼働率等により平成 37 年（2025 年）における病床の必要量を算出 (床)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計	無回答
平成 37 年 必要病床数推計 (a)	426	1,580	1,448	1,176	4,630	
平成 27 年度 病床機能報告 (b)	38	2,707	383	1,092	4,220	203
差引 (b-a)	▲388	1,127	▲1,065	▲84	▲410	
(参考)流出入を見込まない場合の必要病床数	599	1,890	1,668	1,195	5,352	

このように、高度急性期、急性期の完結率が県内において際立って低く、域外搬送件数が多く、心疾患患者の死亡率が高いうえ、また心疾患患者の増加が推計されるなか、心疾患に対応できる高度急性期、急性期病床をもつ施設が不十分であり、整備が急務といえます。埼玉県においては、人口十万人あたりの循環器内科医師数 6.1 人（全国 46 位）と医師が足りない現状もあり、心疾患患者に対し、高度専門医療施設の設立は、循環器内科医の雇用の場を作る機会となります。

当院の特長として、上述の通り、心疾患に対して高度の専門医療を提供しております。また当院の病床利用率 88.3% (74.5-125.4%) と、利根区域 72.1%、県全体 74.1%に対して大きく超えており、過去 2 年間の医療資源投入量による機能別患者内訳は、高度急性期 73.3%、急性期 24.5%、回復期 1.7%、慢性期 0.5%と、高度急性期、急性期で 97.8%と重症な患者さんに利用されており、また 2016 年度は年間 259 台、2017 年度は年間 404 台もの循環器疾患を中心とした救急車の受け入れを行なっております。

【図表 6-2】各区域における診療件数（入院（心疾患）・平成 25 年）（件）



厚生労働省「医療計画作成支援データブック」により作成
 保険者の居住地に地域性の明確な地域保険の電子レセプトのみを集計

埼玉県地域医療構想第 3 章 イ (図表 6-2) より、利根区域の心疾患年間地域外入院 4000 件以上あり。その人数に対応する必要な病床数は、 4000×4.53 (しらさきクリニック入院日数) $\div 365 = 49.6$ 床とも試算できます。心疾患の高度専門医療を行う当院を 36 床を開設しますと、高度急性期を中心に利根医療圏の病床需要を満たすものといえます。

また先にのべた利根医療圏の低い高度急性期、急性期の完結率の改善、高度急性期、急性期患者の流出を抑制し、流入に対応し、年間の域外入院 $36 \times 365 \div 4.53 = 2900$ 件減少でき、今後増加する心疾患患者に対応し、心疾患の域外搬送を減らし、搬送時間を短縮し、救命率向上、死亡率低下に貢献するものと考えられます。今回の病床開設と同時にハイブリッド手術室を整備し、大動脈解離などの心臓外科手術が必要な症例に対応します。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 17 床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
心血管疾患医療 救急医療	高度急性期	一般	特定集中治療室管理料 3	4
心血管疾患医療 救急医療	急性期	一般	地域一般入院料 1	13
計	—	—	—	17

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

当院における対象入院待機患者 1679 人 \times 平均在院日数 $4.53 \div 365 = 20.8$ となっており
 ます。埼玉県地域医療構想第 3 章 イより、利根区域の心疾患年間地域外入院 4000 件以上あ

り。その人数に対応する必要な病床数は、 4000×4.53 （しらすきクリニック入院日数） $\div 365 = 49.6$ 床とも試算できます。心疾患の高度専門医療を行う当院をあらたに17床を開設しますと、高度急性期を中心に利根医療圏の病床需要を満たすものといえ、集中治療室4床、急性期一般病床13の合計17床を申請いたします。

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	4233.82㎡		借地
取得予定	0㎡		借地
計	4233.82㎡		

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・その他（ ）
概要	<p>規模：地上4階 地下0階 構造：鉄骨造</p> <p>建築面積：1100.52㎡（増床前：1100.52㎡）</p> <p>延床面積：2818.76㎡（増床前：2690.83㎡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階日帰りセンターのICU 4床化 ・3階入院病床の個室3床増設 3階ベランダの病室化+6床 ・3階リハビリ室の病室4床化 および1階CT予備室のリハビリ室化 ・4階に更衣室移設、および倉庫室の増設

(4) 医療従事者

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	4	16	3.3	5		
看護師	16	3	1.5	11		
その他	60	2	1.0	2		
計	80	21	5.8	18		

確保状況・確保策、確保スケジュール

ハローワーク、折り込み広告、人材紹介会社等の媒体を活用し、前倒しで増員を図りながら、増床分が稼働する1ヶ月前には予定人員が確保できるように努める

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
-----	----	------	----

病院整備計画申出者（法人名）白崎 泰隆

1	開設（変更）許可（医療法）	平成 31 年 6 月	
2	建築（着工～竣工）	平成 31 年 7 月～平成 31 年 12 月(6 か月)	
3	使用許可（医療法）	平成 32 年 1 月	
4	開設（増床）	平成 32 年 1 月	

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

病院の名称：社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 東埼玉総合病院

所在地：〒340-0153 埼玉県幸手市吉野517-5

二次保健医療圏：利根

2 開設者の名称・所在地

社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス

〒243-0433 神奈川県海老名市河原口1320

3 病院の現状

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
高度急性期	一般病床	10	10	0
急性期	一般病床	149	149	0
回復期	一般病床	14	14	0
計		173	173	0

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
81.7%		89.4%	

4 開設等の目的、必要性

《現状》

- ・満床を理由に緊急の入院対応が困難なケースも出ている
- ・回復期機能病床への転院において利根医療圏外へ依頼している（患者流出）

《課題》

- ・全体病床数を増加させ救急医療において入院対応が困難なケースの減少
- ・地域完結型医療の実現のため、利根医療圏外への回復期患者の流出を減少
- ・在宅医療の継続

以上より、急性期機能を維持しつつ回復機能を強化。

《人員体制》

現職員数にて対応可能

《設備整備計画》

3階および4階病棟の改修となるが、自己資金にて対応可能

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 +16 床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
回復期機能	回復期	一般	地域包括ケア病棟 1	+16
計	—	—	—	+16

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

客観的データを用いた積算根拠（例：対象入院待機患者数×平均在院日数÷365）を記載してください。	
1年間の退院患者数	4347人/年（一般病棟からの退院）
うち、回復機能病床への転院	172人/年
うち、利根医療圏外への転院	94人/年…①
①×平均在院日数69.4日* =	6,523人/年…②
②÷365 =	17.9人/日
以上より、当院から転院する患者であって、利根医療圏以外の回復機能病床への流出している患者を、当院の包括ケア病棟で継続的に医療を行うとした場合は17.9人/日の需要がある。	
また、当院は173床の規模ではあるが年間2800台以上の救急搬送を受け入れていることや、昨年度の月平均病床利用率 最大92.3%ということもあり、満床を理由に救急搬送をお断りするケースも出ている。そのため、全病床数を増床させることによって受け入れ態勢を強化する。	
以上より、急性期機能を維持しつつ（一部12床を回復機能に転化）回復機能を増床・強化する。	
*平成29年10月25日中医協資料より	

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	20,056.90m ²		所有・借地
取得予定	m ²		所有・借地
計	20,056.90m ²		

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・ <u>改修</u> ・その他（ ）
概要	既存建物内の改修 床面積：124.256㎡（内法）

(4) 医療従事者

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	32	88	9.9			
看護師	165	30	22.5			
その他	133	97	65.3			
計	330	215	97.7			

確保状況・確保策、確保スケジュール

現在の人員体制にて対応可能です。

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
1	開設（変更）許可（医療法）	平成 32 年 6 月	
2	建築（着工～竣工）	平成 32 年 11 月～平成 33 年 3 月(5 か月)	
3	使用許可（医療法）	平成 33 年 3 月	
4	開設（増床）	平成 33 年 4 月	

病院整備計画の概要書

1 病院の名称・所在地・所在二次保健医療圏

東鷲宮病院 / 埼玉県久喜市桜田3丁目9番3 / 利根医療圏

(新病院：埼玉県久喜市桜田2丁目6-5) / 利根医療圏

2 開設者の名称・所在地

医療法人三和会 理事長 猪口雄二 / 埼玉県久喜市桜田3丁目9番3

3 病院の現状

病床数

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
急性期	一般	95	95	0
回復期	一般	32	32	0
慢性期	療養	36	36	0
計		163	163	0

病床利用率（平均）

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
90.05	99.25		99.4

4 開設等の目的、必要性

平成25年10月より利根医療圏の旧鷲宮町で唯一の回復期リハビリテーション病棟を持つ医療機関として地域医療に貢献しております。現在32床の回復期リハビリ病床をフル稼働し当院でオペを行った整形疾患や脳血管疾患、他院からのリハビリ目的患者の受け入れを行っており常に満床の状況です。入院待機患者も何名かおり当院での入院加療を希望していただいたにもかかわらず受入が間に合わず他院へ入院していただいたというケースもみられ12床の増床が認められた場合、待機患者は現状よりも多少改善されると思えます。

平成30年11月に新病院へ移転しますがリハビリ部門の充実を新病院のコンセプトの1つとして掲げ、患者からの要望が強い365日リハビリが提供出来るよう現在準備を進め今年度中に実現できるよう体制を整えています。一人でも多くのリハビリを必要とされている患者さんに当院を利用していただき在宅復帰または社会復帰への足掛かりとなればと考えております。回復期リハビリ病棟についてはゆとりを持ったベット配置及び設計をしておりすぐにでも増床可能です。

雇用に関しては看護師/看護補助者以外は既に確保できております。現在、整形外科 脳外科の常勤医師は各1名体制ですが地域のニーズに合わせ常勤2名体制に出来るよう採用

を進めております。看護師/看護補助者につきましては移転先が大型マンションと隣接していることもあり求人広告などを使わなくとも問い合わせが多いため確保できそうです。設備が充実し療養環境が改善され365日リハビリが提供できる体制を整えば今以上に当院でのリハビリを希望される患者が増え待機患者も増えることが間違いなく予想されます。

5 開設等の計画の具体的内容

(1) 整備する病床の機能・数 整備計画病床 12 床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
回復期機能	回復期	一般	回復期リハビリテーション病棟入院料 4	12
計	—	—	—	12

* 回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

病床数の根拠

・ 病床利用率(平成29年7月～平成30年6月)
 一般病棟：平均90% /回復期リハビリ病棟：平均99.4% /療養病棟：平均99.2%

・ 平均在院日数（除外患者含む）
 一般病棟：21.8 /回復期リハビリ病棟：70.1 /療養病棟：平均187.9

・ 回復期該当疾患手術件数（整形/脳外）：月平均 9件

・ 対象入院待機患者数（平成29年度 59名）×平均在院日数（回復期病棟 70.1）
 $\div 365 = 11.33$

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	7217.58㎡		所有・借地
取得予定	㎡		所有・借地
計	7217.58㎡		

(3) 計画建物

工事種別	新築・増築・改修・ <u>その他</u> （平成30年11月新病院へ移転）
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築用途：病院 ・ 構造：鉄骨造 ・ 建築面積：3,360.08㎡ ・ 建物最高高さ：23.60m ・ 延べ面積：9,807.50㎡ ・ 建ぺい率／容積率：60％／200％ ・ 規模：地上5階 ・ 工期：平成29年6月中旬～平成30年9月下旬完成 <p>◆新病院概要</p> <p>1階：外来、検査、透析 2階：検査、健診、手術、リハビリテーション、管理 3階：病棟 4階：病棟 5階：管理</p>

(4) 医療従事者

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	12	29	4.83	0	0	0
看護師	42	48	27.05	6	0	0
その他	141	92	45.03	4	0	0
計	195	169	76.91	10	0	0

確保状況・確保策、確保スケジュール

<p>医療従事者確保状況については看護師/看護補助者以外は既に確保できております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師 6名 ・ 看護補助 4名 <p>上記の採用が必要となる為、9月中旬に新病院オープンに向け近隣者向け大々的に求人を出す予定。又、求人情報サイト（コメディカルドットコム/インディード）及びホームページに求人情報を掲載し12月を目途に求人確保いたします。幸い新病院移転先が大型マンションと隣接しており現在でも多職種にわたり入職の応募をいただいております。現状人材紹介会社等利用せずに職員確保できております。</p>

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
1	開設（変更）許可（医療法）	平成31年04月	
2	建築（着工～竣工）	平成 年 月～平成 年 月（ か月）	
3	使用許可（医療法）	平成31年04月	
4	開設（増床）	平成31年05月	